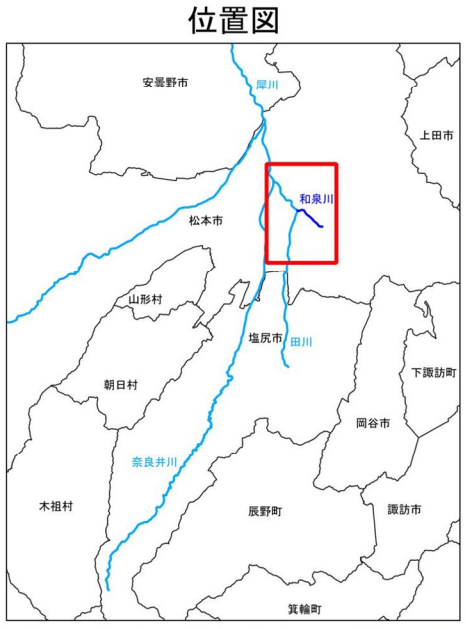
信濃川水系　和泉川　多段階の浸水想定図
（現況河道W＝1／10）

位置図



1．　説明文

(1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、現況（令和３年度末）の和泉川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率１／１０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１０（１０％））の降雨に伴う洪水により和泉川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、想定される浸水範囲と浸水深を示したものです。

(2) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定域内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、中央集中型モデル降雨波形を用いているため、各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

2．　基本事項等

(1) 公表年月日　令和８年３月２７日

(2) 作成主体及び対象となる河川　長野県松本建設事務所：信濃川水系和泉川

(3) 実施区間　長野県松本建設事務所

・和泉川

左岸：松本市大字中山字北浦１９７６番の２地先（一級河川管理区間上流端）から田川への合流点まで

右岸：松本市大字中山字弥生坂山１５８６番の１地先（一級河川管理区間上流端）から田川への合流点まで

(4) 算出の前提となる降雨

年超過確率１／１０（和泉川流域の２４時間の総雨量７７mm）

(5) 河道条件：現況（令和３年度末）

(6) 関係市町村　松本市

(7) その他計算条件等

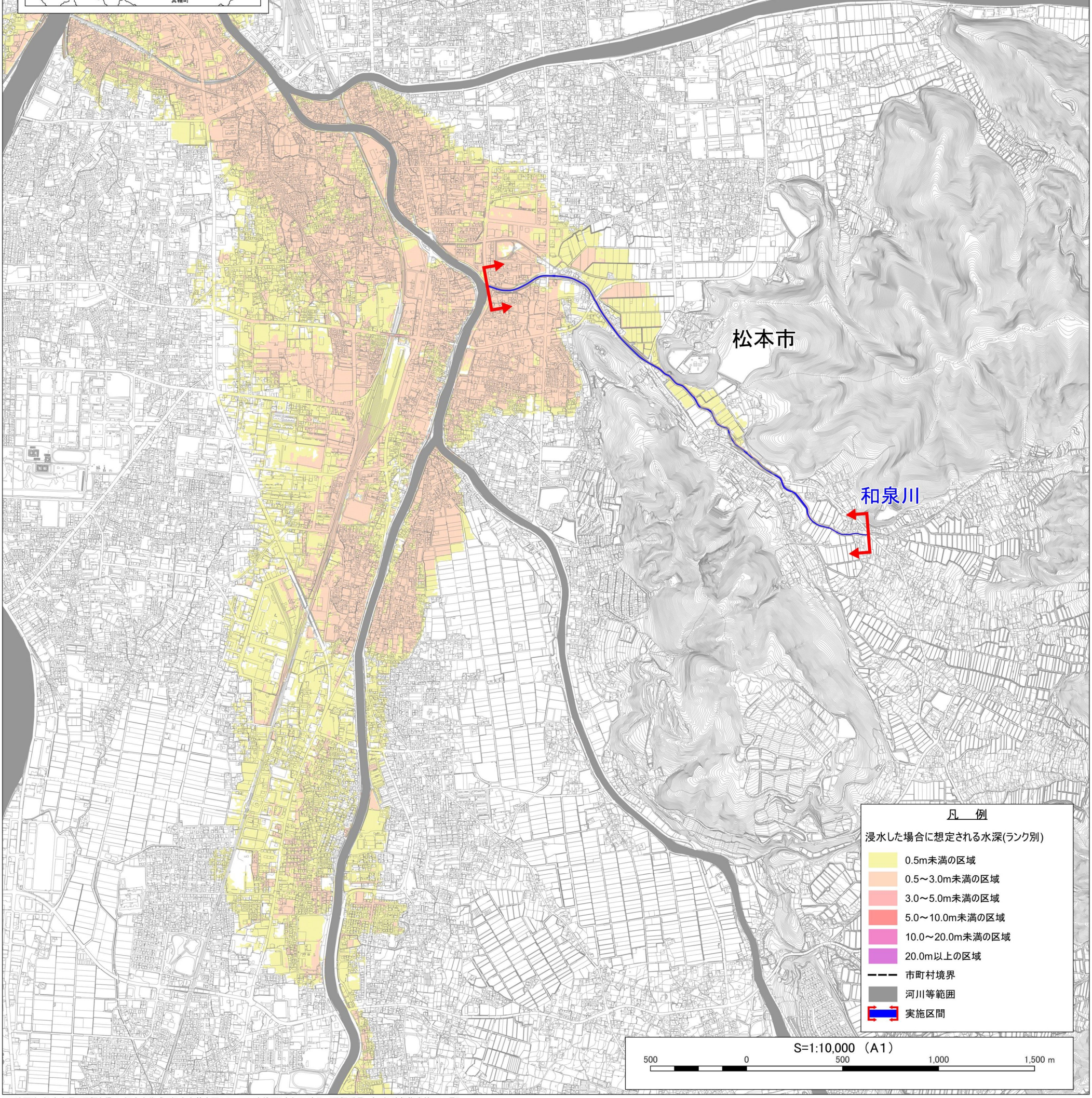
①氾濫計算は、対象区間をおよそ５m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを１単位として水深を計算しています。また、計算メッシュの地盤高は、航空レーザ測量等により求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が反映できない場合があります。

②洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。

③以下の年超過確率１／１０の降雨に伴う洪水による浸水状況のシミュレーション結果を重ね合わせて表示しています。

（奈良井川、大門沢川、西大門沢川、田川、女鳥羽川、湯川、薄川、和泉川、牛伏川）

※この浸水想定図は流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。



この地図は、松本市長の承認を得て、松本市作成の松本市基本図1/2，500を使用したものである。（承認番号　令7松建都指令第283号）